

(会 告)

公益社団法人日本超音波医学会  
第20回特別学会賞受賞者



貴田岡正史 (1950-)

### 貴田岡正史先生の特別学会賞受賞を讃えて

この度、貴田岡正史先生が日本超音波医学会第20回特別学会賞を受賞されました。心からご祝辞を申し述べ、先生のご業績をご紹介申し上げます。

貴田岡正史先生は1975年に弘前大学医学部を卒業になり、内分泌内科医として医師のキャリアをスタートされました。内分泌疾患、なかでも甲状腺疾患の診療に携わる中で早い時期から超音波検査に興味を持たれ診療に活用されていました。ちょうどこの時期は超音波診断装置の改良が進み、臨床の各領域で広く使われ始めた頃であったそうです。先生の日本超音波医学会での最初のご発表は1981年の第39回学術集会においてでした。「超音波ガイド下甲状腺穿刺による吸引細胞診の有用性について」の演題で、触知できない甲状腺結節に対しても超音波ガイド下に正確にサンプリング可能であることを示したご研究<sup>1)</sup>です。その後も引き続き甲状腺疾患における超音波診断の意義についてご研究を進められ、甲状腺結節の良悪性鑑別についても検討を進められました。1987年頃からは副甲状腺疾患の超音波診断、ドプラ法による血流評価を用いた甲状腺中毒症の鑑別のご研究、さらに腎性副甲状腺機能亢進症や甲状

腺疾患に対する経皮的エタノール注入療法 (PEIT) に関する検討を重ねられました。また、超音波診断装置の進歩を先取りし、エラストグラフィーや血流評価の新しい機能を駆使して臨床への応用を拡大して来られました。

このように先生は甲状腺・副甲状腺の超音波診断だけでなくインターベンションの領域においても、絶えずその発展を牽引して来られました。私たちは先生の後ろを追いかけながら日々の診療研究に従事していますが、常に大所高所からご意見をいただき甲状腺の超音波診断に携わっている私たちをリードして下さいます。先生のご業績を数えれば際限がありませんが、重要なご業績をいくつかご紹介させていただきます。

#### 1. 貴田岡先生と日本乳腺甲状腺超音波医学会 (JABTS)

JABTS は日本超音波医学会の乳腺・甲状腺研究部会を継ぐ形で1998年に発足しましたが<sup>2)</sup>、先生はその発足時からの主要メンバーのひとりでした。1999年には第3回JABTS学術集会の世話人をお務

めになっています。その後も JABTS の発展に尽力され、2004 年から 2007 年の間は理事長をお務めになりました。

## 2. 貴田岡先生と PEIT

1990 年前後から先生は腎性副甲状腺機能亢進症の診断治療に取り組まれています<sup>3,4)</sup>。腫大した副甲状腺に対してエコー下に PEIT を行い、外科的な副甲状腺摘出に代わる治療法を確立されました。このインターベンションに関する研究会の成果はガイドライン<sup>5)</sup>にまとめられています。腎性副甲状腺機能亢進症に対する PEIT は後に保険収載され、今も治療選択肢のひとつとして認知されています。

甲状腺の嚢胞と過機能結節に対する PEIT についても有効性を示され、これも確立された治療法として保険収載されています。

## 3. 貴田岡先生と甲状腺超音波診断ガイドブック

2008 年に甲状腺超音波診断ガイドブックの初版が上梓されました。これは先生を中心として甲状腺の超音波診断に関わっている国内の専門医が集まって作成したものです。改訂を重ねて現在は第 3 版が出版されていますが、甲状腺を中心とする頸部超音波検査のバイブルとして広く活用されています。

## 4. 貴田岡先生と甲状腺結節（腫瘍）超音波診断基準

日本超音波医学会は 1999 年に甲状腺結節（腫瘍）超音波診断基準を公示しました。先生は 2000 年から日本超音波医学会用語診断基準委員会に参加され、2008 年からの 4 年間は同委員会の委員長を務められました。この間に診断基準の見直しについて指揮を執られ、2011 年には新しい甲状腺結節（腫瘍）

超音波診断基準が公示されました<sup>6,7)</sup>。

## 5. 貴田岡先生の Ultrasonic Week 2014

先生は 2014 年 5 月に横浜で開催された日本超音波医学会第 87 回学術集会の会長を担当されました。この時は先生のご発案で 5 つの学会が同時開催、さらに 8 つの学会研究会が共同企画という形で参画し、Ultrasonic Week 2014 として開催されました。複数の学会との共同開催となればその準備や当日の運営には相当のご苦勞があったものと推測されますが、日本超音波医学会初の試みを鮮やかに成功に導かれました<sup>8)</sup>。

## 6. 貴田岡先生と日本超音波医学会

用語診断基準委員会でのお仕事については前述いたしました。先生はこの他にも専門医制度委員会の委員を永くお務めになり、超音波専門医制度の確立に尽力されました。2012 年から 4 年間は委員長をお務めになりました。また、2008 年から 8 年間に渡り日本超音波医学会の理事として、学会の発展に寄与して来られています<sup>9)</sup>。

超音波医学の領域においてもまだまだ多数のお仕事があり、すべてをご紹介申し上げることは叶いません。さらに先生は内分泌内科医として内分泌学や糖尿病学の領域においても多くのご業績をお持ちです。このような先生が日本超音波医学会特別学会賞を受賞されましたことは、先生のもとでご指導いただいている私も全員の喜びでもあります。貴田岡正史先生、ほんとうにおめでとうございます。

(野口記念会 野口病院 院長 村上 司)

## 2018 JSUM Prize Winner Masafumi KITAOKA, M.D. FJSUM, SJSUM (1950 - )

It is our great pleasure to write here to congratulate Dr. Masafumi Kitaoka on his being awarded the 20th Prize of the Japan Society of Ultrasonics in Medicine (JSUM). Dr. Kitaoka has been working in the field of diagnosis and intervention of thyroid or parathyroid diseases with ultrasound since he graduated from Hirosaki University School of Medicine in 1975. His first presentation at a JSUM meeting was about his

research concerning ultrasound-guided fine-needle aspiration cytology (FNA) for thyroid nodules in 1981.

Dr. Kitaoka has participated in The Japan Association of Breast and Thyroid Sonology (JABTS) since the foundation of JABTS. He organized the third meeting of JABTS held in Kodaira in 1999. Percutaneous ethanol injection therapy (PEIT) for parathyroid

lesions and thyroid nodules was one of many topics in which he took interest. He established the procedures of PEIT for renal hyperparathyroidism, and he published guidelines for parathyroid PEIT in chronic dialysis patients. Dr. Kitaoka contributed to Thyroid Ultrasound - a guidebook for diagnosis and management, which was published in 2008 and has since been well accepted by many doctors and sonographers. Dr. Kitaoka previously served as chairman of the Terminology and Diagnostic Criteria Committee, during which time he spearheaded the establishment of diagnostic criteria for thyroid nodules, which were announced in 2011. He also

contributed to JSUM as an executive trustee in 2008-2015, and served as chairman of the Medical Fellow Certification Committee in 2012-2015.

Finally, Dr. Kitaoka successfully organized the 87<sup>th</sup> Annual Scientific Meeting of JSUM and several conjunct societies, referred to as Ultrasonic Week 2014, which was held in Yokohama on May 9-11, 2014.

We'd like to express our respect for his outstanding achievements and our most sincere congratulations on being awarded the JSUM Prize.

(Tsukasa Murakami, Department of Endocrinology, Noguchi Thyroid Clinic and Hospital Foundation)

#### 参考文献

- 1) 貴田岡正史, 町田光司, 武部和夫. 超音波ガイド下甲状腺穿刺による吸引細胞診の有用性について. 第39回日本超音波医学会講演論文集. 1981;39: 329-30.
- 2) 貴田岡正史. 甲状腺超音波診断の歴史と日本乳腺甲状腺超音波診断会議 (JABTS) の活動. 乳腺甲状腺超音波医学. 2012;1:13-6.
- 3) Kitaoka M. Ultrasonographic diagnosis of parathyroid glands and percutaneous ethanol injection therapy. Nephrol Dial Transplant 2003;18(Supple3):iii27-iii30.
- 4) Kakuta T, Fukagawa M, Kitaoka M, et al. Percutaneous ethanol injection therapy for advanced renal hyperparathyroidism in Japan: 2004 survey by the Japanese Society for Parathyroid Intervention. NDT Plus 2008;1(Supple3):iii21-iii25.
- 5) 深川雅史, 富永芳博, 貴田岡正史, ほか. 選択的副甲状腺 PEIT に関するガイドライン 2000. 透析会誌. 2000;33:1343-5.
- 6) 日本超音波医学会用語・診断基準委員会, 平成 20・21 年度結節性甲状腺腫診断基準検討小委員会. 甲状腺結節 (腫瘍) 超音波診断基準. 超音波医学. 2011;38:667-70.
- 7) 貴田岡正史. わが国における甲状腺超音波検査の歴史と現状. 内分泌甲状腺外会誌. 2017;34:2-6.
- 8) 貴田岡正史. 一般社団法人日本超音波医学会第 87 回学術集会を終えて. 超音波医学. 2014;41:883-92.
- 9) 貴田岡正史. 甲状腺超音波検査の成り立ちと展望. 日本超音波医学会 50 周年記念誌補完篇. 一般社団法人日本超音波医学会; 2013. p.6-11.